



まーめいと通信 じどうしつだより 冬のとくしゅう号



寒い冬、みなさんはどうやってすごしますか？
元気に外で遊んだり、部屋で好きな本を読んだり・・・
図書館で働いている人たちは子どものころ、どんな本を読んでいたのでしょか？
きょうみのある本があったらぜひ、読んでみてくださいね。



『おおきなきがほしい』 Eム ^{さとう}佐藤さとるぶん ^{むらかみつとむ}村上勉え ^{かいせいしゃ}偕成社

最初で最後!? 父が読み聞かせをしてくれた絵本。
「学校の図書室で借りてきた」と私。
「よい本を借りてきたな」と、ほめてくれた父。
本を読んでもらううちにすっかりお話の世界に・・・
そして、「木の上におうちをつくったら楽しいな。」
と二人で話しました。夢は夢で終わってしまったけれど、
この絵本を見るたび、私は父とすごした時間をなつかしく思い出します。(M)



『とべバッタ』 Eタ ^{たしませいそう}田島征三作 ^{かいせいしゃ}偕成社

草むらから飛び出て生きていくことを決めたバッタ。
その運命は…。私がこの絵本と出会ったのは大人になって
からの事です。たまたま本屋さんで見かけその表紙の絵の
迫力から思わずページをめくりました。この絵本を読み終わった
私はもうバッタは小さな虫だなんて思えません。少しの勇気で新しい世界に出
会える。そんな力を感じさせてくれる絵本です。(U)



『しずかでにぎやかなほん』 Eワ ^{マーガレット・ワイズ・ブラウン}さく
レナード・ワイズガードえ ^{たにかわしゅんたろう}谷川俊太郎やく ^{どうわかんしゅつぽん}童話館出版

色使いがきれいで、文字のデザインは配置も毎ページ違っている
ので、次はどんな絵が出てくるのだろうとページをめくるのが楽しみ
になります。「しずかでにぎやかな」身近なことがらが次々と出てきま
す。日常の出来事が新鮮に感じられてきて、読むと不思議に元気
づけられます。(I)



『おばあさんのすぷーん』 Eト

かんざわとしこ 神沢利子さく とみやまたえこ 富山妙子え ふくいんかんしよてん 福音館書店



雪の中ではじめてすぷーんを見たねずみたち。
すぷーんに映った顔の変化が楽しくて、家のスプーンをのぞきこんだ記憶があります。そりになってねずみたちと帰ってきたすぷーんが、おばあさんのスープをすくうところはとてもあたたかで、今でもスープを食べたくなります。おだやかなリズムで書かれている文も耳に心地よく、冬のあたたかな家の中を感じさせてくれる本です。(I)



『ちいさいおうち』 Eバ

ばーじにあ・りー・ばーとんぶん・え
いしいももこやく 岩波書店



いなか^たに建てられたちいさいおうち、家族^{かぞく}に愛され
幸せ^{あいき}そうにほほえんでいる顔^{かお}に、子どもだった私まで
幸せ^{あいき}になりました。そして、みんなに忘れられた後の
さみしい表情^{ひょうじょう}には胸^{むね}がつぶれるような思い^{かん}を感じま
した。だれかの心配^{しんぱい}をする、幸せ^{あいき}を願^{ねが}う、その幸せを
心^{こころ}から喜^{よろこ}べる…人^{ひと}を思いやる気持ち^{きもち}を自然^{しぜん}に学^{まな}ばせ
てくれた心^{こころ}あたたかくなる思い出^{おもいで}の本^{ほん}です。(K)

『長い冬』 93ワ

ローラ・インガルス・ワイルダー作
たにくちゆみこやく 谷口由美子訳 いわなみしよてん 岩波書店



ローラの家族^{かぞく}が暮^くらしている大草原^{だいそうげん}に長くきびしい冬^{ふゆ}がやってきました。たくさんの雪^{ゆき}が降り、生活^{せいかつ}に必要な^{ひつと}ものを運^{はこ}んで来る汽車^{きしや}も来^きません。家族^{かぞく}は力を合^あわせてきびしい自然^{しぜん}とたたかいながら、冬^{ふゆ}を乗り越^こえて行^いきます。家族^{かぞく}のぬくもりと力強^{ちからつよ}さを感じられる、「ローラの物語^{ものがたり}」シリーズ6さつ目の物語^{ものがたり}です。(N)



『おやつがほーいどっさりほい』 Eウ

うめだしゅんさく よしこ しんにほんしゅつぱんしゃ
梅田俊作・佳子さく 新日本出版社

みえちゃんのおやつを、きつねさんと同じく
らい楽しみにしながら母と読んだなつかしい
絵本です。バスケットにおやつを入れて出かける、
というのにあこがれて、私も何度もまね
しました。さてさて、きつねさんはおいしいおやつ、
食べられたのでしょうか…？ (M)



『くらやみ城の冒険』(ミス・ビアンカシリーズ)

93シ マージェリー・シャープ作 渡辺茂男訳
ガス・ウィリアムズ絵 岩波書店

夢のようにぜいたくなくらしをしている、あまやかされた、世間知らずの、おしゃれで、わがままな白ねずみ、ミス・ビアンカと仲間たちの冒険のお話です。ふつうに考えたら、ちょっと好きになれそうもない主人公ですよね。でも、いざとなるとときょうがあってカッコいいので、すっかりあこがれてしまいました。(E)

『もりのおくのおちゃかいへ』 Eミ

みやこしあきこ著 偕成社

みなさんから返却された本の中から「エツ、こんな絵本があったの?」と、ステキな作品をはっけん発見することがあります。この絵本はそんな1さつ。灰色の世界に映える赤が印象的。おつかいの途中で道に迷った女の子が、着飾った動物たちのお茶会に迷いこむ幻想的なお話です。子どものころから動物が大好きな私には、遠い昔、夢の中で見たようななつかしい想いにさそわれた絵本です。(M)



『ものぐさトミー』 93 デ ペーン・デュボア文・絵 まつおかきょうこやく いわなみしよてん 松岡享子訳 岩波書店

トミー・ナマケンボは電気じかけの家に住んでいます。毎日、着がえや
 歯みがきから食事まで全自動。ところがある夜、大嵐おおあらしがきてトミーの家は
 停電ていでんしてしまい…。予想よそう通りの結末けつまつ。でもトミーの笑い顔わらや、最後の部分
 が、ずっと心に残ります。子どものころに兄弟おおわらで大笑いしながら読んだ、
 大切な本です。(1)



『12のつきのおくりもの—スロバキア民話—』 E マ

うちだりさこさいわ まるきしゆん ふくいんかんしよてん
 内田莉沙子再話 丸木俊画 福音館書店

雪にうもれた森。マルーシカのために、月の精せいが咲かせたすみれの花。
 実みのったいちごや、りんごなど。一面真っ白な雪の中に現あらわれた、紫むらさきや
 真っ赤な色、色。情景じょうけいを想像しただけで、とてもワクワクした気持ちきもちを
 おぼえています。雪の山ではありませんが、マルーシカをまねて桜山さくらやまで
 採とったへびいちごを食べようとして怒おこられたことも。(1)



『800番への旅』 93 カ E.L.カニグスバーク作 こじまきりやく いわなみしよてん
 小島希里訳 岩波書店

日常にちじょうに何か言いいようのないモヤモヤ感かかを抱かかえているひとに、
 物語が新しい発想や思いがけない発見はっけんをくれることがあります。
 この本はいろいろな考え方、生き方いきかたの人がたくさん登場して、
 自分と自分の知しっている世界せかいが全すべてではないことを教えてくれます。
 ときにはひとりになって、物語を旅たびしてみては？ 本も友達ともだちになりますよ。(0)



冬休み小学生おはなし会

12月22日(土)午前10:30~11:10

図書館1階おはなしコーナー

内容:小学生のための絵本の

読み聞かせ、すばなし、

かみしほい
 紙芝居など